

第23回（教育）分科会報告書

1. 開催日時：平成27年6月24日（水） 15：30～17：00

2. 開催場所：やめっこ未来館 学習室

3. 参加者（所属のみ）

筑後特別支援学校、県南筑後保健福祉環境事務所、ふるさと、蓮の実団地、さら、ミライプラス、八幡小学校、中広川小学校、西中学校、西日本短期大学付属高校、西日本短大、八女市福祉課、広川町福祉、リーベル

※今回のみ参加：陽だまりの里、保護者

4. 実施内容

○講演：「地域にはぐくまれて、貴喜らしく生活しています」

講師：井上洋子さん（井上貴喜さんのお母様）

○講演内容

貴喜さんは、現在22歳。地域の小学校、中学校を卒業し、その後、筑後特別支援学校へ進学。寄宿舎生活も体験しながら、学校生活を送る。高等部の時に、現場実習を行い、卒業後は、陽だまりの工房（就労継続支援B型）を利用し、グループホームに入居中。



○アンケート

・地域の温かさを生んだのは貴喜さん本人の温かさであり、それを生んだのは御家族の温かさではないかと感じました。私自身、今の職についてまだ浅く、未熟ですが、温かさの連鎖を生めるような支援ができたらと感じました。

・当事者の方のお話を聞く機会があまりないので、とても参考になりました。「子どもの自立を目指して」と言いながら、目の前の指導（教科学習や作業等）に追われている中、先（卒業後）の進路や就労にまでしっかり目を向ける必要性も痛感しました。そして、改めて、「地域の学校で学ぶこと」の大切さも感じました。今、悩んでいる多くの保護者の方にも聞いてほしかったと思います。

・家族（兄妹）、地域の人々、学校の先生、相談支援センター、施設などの連携や、結びつきが、一生大切なんだと思いました。また、お母様の貴喜さんを思われる意識は貴喜さんと前向きに生きている生き方には、感動しました。

・障がいをもつ親と家族の葛藤がよく分かる内容でした。中学まで普通学校に通わせる決断をされた親の勇気を尊敬いたします。地域の方々が障害を理解するには、障がいの方々とかかわる不安があると思います。今回の貴喜くんの例では、地域の中にあえて参加させることができたことは、貴喜くんだけでなく、地域の人々の学びや理解をえることができたのだと思います。



・井上さんの「この子を守るのは私しかいない！」と決心された思いにとっても力づけられました。周囲の方々が温かく支えてくださるのも、お母さんがまるごと受け止められてこそだと思います。私も一番の味方になってあげたいと思いました。

